



梅島小だより

じっと聞くということ

校長 江原 敦史

今までよりも少し長い夏季休業が終わり、学校に子どもたちの声に戻ってきました。

夏季休業期間は、空調設備の工事によりご不便をおかけしましたが、保護者の皆様のご協力のおかげで、工事も無事終わりました。ありがとうございました。

校舎内の床は、主事さん方が暑い中作業をしてくださり、ピカピカです。

気持ちよく学習に取り組めそうです。

さて、私たちは日常生活の中で、いろいろなストレスを受けたり小さな悩み事をもったりしますが、そんなときに、自分なりの解消法をもっている方も多いと思います。

「買い物で気分転換する」「好きなものを食べる」「大声で歌う」などなど。

しかし、重い悩みを抱えたり、自分一人では解決が難しいことに直面したりすると、そうとばかり言っていられません。

そのようなときの解決法の一つに「人と話をする」「人に相談する」というのがあります。

人に悩みを打ち明けたり、思い切って相談したりすると、不思議と気持ちが軽くなり、前向きに物事を考えるきっかけをもてるようになります。

長い休みが明けて子どもたちの胸中もさまざまです。

「がんばるぞ!」という気持ちとともに「大丈夫かな…」という不安を抱えている子もいることでしょう。

そのようなとき子どもたちは、自分の話を親身になって聞いてくれる人を求めているのかもしれない。



聞くほうは「何か気の利いたアドバイスをしなくては」と気負ってしまうことがありますが、そこはぐっとがまんして、ひたすら「じっと聞く」ことに徹する。

そうすることで、子どもたちは「親身に聞いてくれたことがうれしい」と感じ、「話していたら、自分で解決方法が見えてきた」と一歩前に踏み出せるようになるのだと思います。

私たち教職員も、子どもたちの様子に気を配り、子どもの言葉にじっと耳を傾けながら、子どもたちの不安な気持ちを軽くしてあげられるようにしていきたいと思います。

「目を見つめて、一緒に笑い、一緒に泣く気持ちがないなら、他人の話を聞かないで」

(永六輔)